

日本の魅力を生かした
新たな価値創造産業の創出に向けて

平成26年3月

経済産業省
商務情報政策局

「日本再興戦略」における新たな価値創造産業の位置づけ p2

各分野の概況 p3

1. IT分野 p4

- ①IT投資額、② IT投資の戦略、
- ③攻めのIT投資が進まない要因、
- ④ビッグデータの活用、
- ⑤サイバー攻撃の激化

2. 健康医療分野 p9

- ①増え続ける医療費、
- ②セルフメディケーション(自己管理)の重要性、
- ③医薬品・医療機器の輸入超過

3. サービス分野 p12

- ①経済規模、②生産性、③国際比較

4. クールジャパン分野 p15

- ①市場規模、②日本の評価、③輸入超過

今後、検討が必要な課題例 p18

検討の方向性 p20

1. IT分野 p21

- ① IT・エレクトロニクス産業、
- ②ビッグデータの利活用、
- ③サイバーセキュリティの確保

2. 健康医療分野 p24

- ①ヘルスケア、②関連市場の創造

3. サービス分野 p26

4. クールジャパン分野 p27

- ①クールジャパンの3段階、
- ②官民ファンド・クールジャパン機構、
- ③クールジャパン機構の投資対象イメージ、
- ④クールジャパンに係る各省連携の取組
- ⑤インフラシステム輸出(コンテンツなどの輸出)

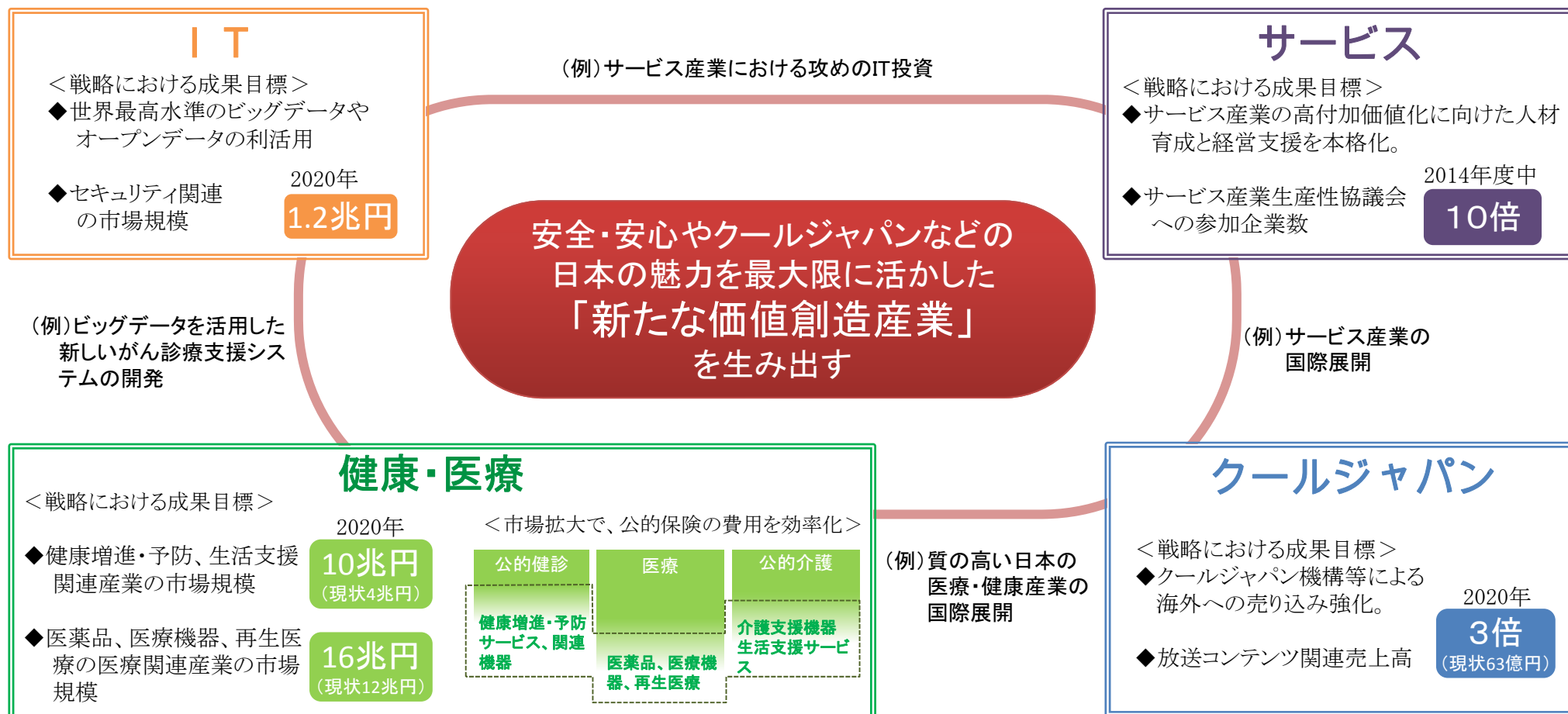
分科会の下部組織等の状況について p33

1. 世界最先端IT国家創造宣言
2. IT利活用ビジネスに関するルール整備WG
3. 次世代ヘルスケア産業協議会／医療の国際展開
4. サービス産業の高付加価値化に関する研究会
5. 伝統的工芸品指定小委員会

「日本再興戦略」における新たな価値創造産業の位置づけ

商務情報政策局が担当している①ITによるイノベーション、②健康寿命延伸産業、③付加価値の高いサービス産業の創出、④クールジャパンの推進は、「日本再興戦略」に盛り込まれており、それぞれの市場拡大が見込まれるだけでなく、互いに相乗効果を及ぼしあう関係。

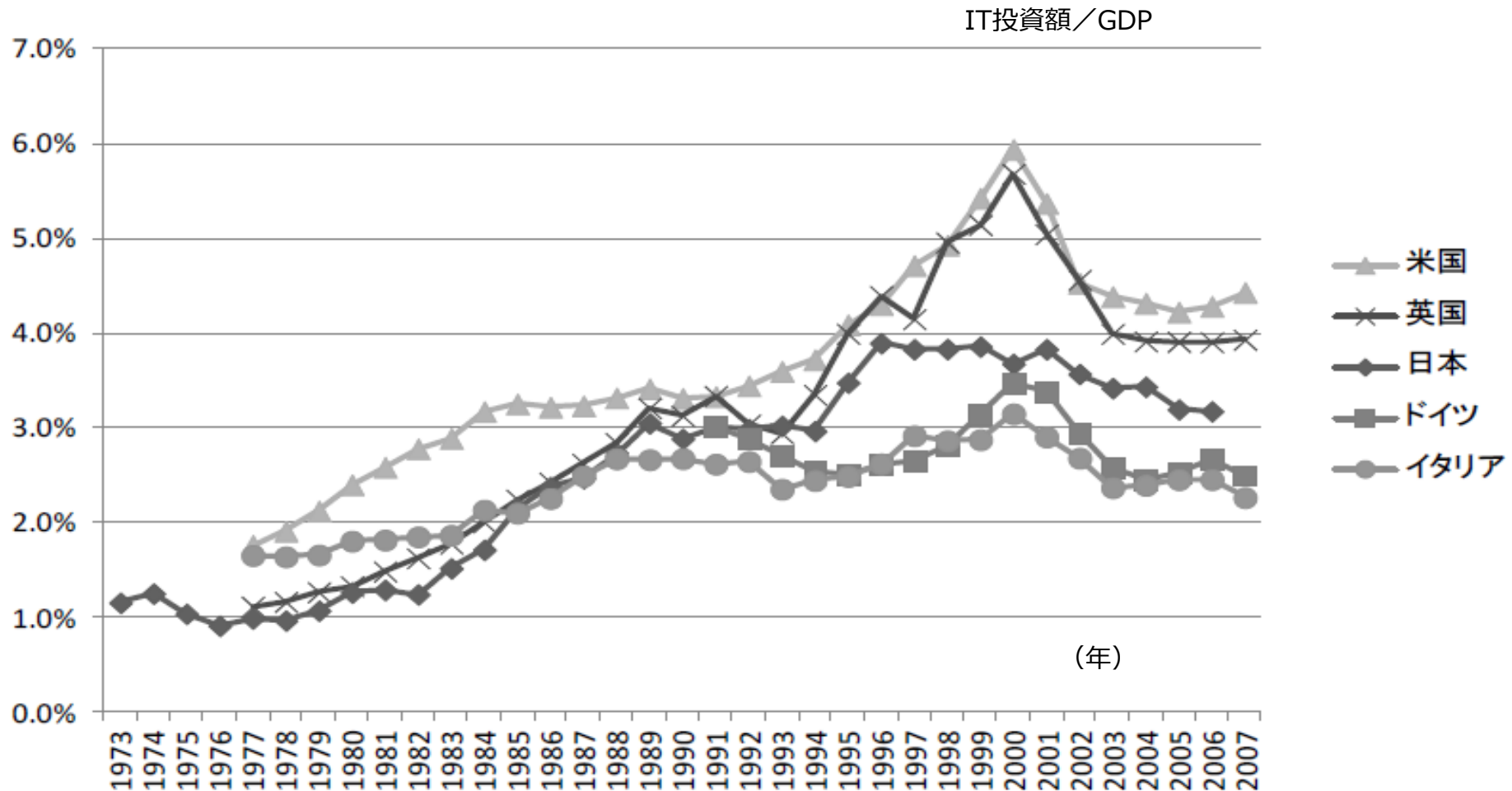
これらの分野を組み合わせ、日本の魅力を最大限に活かした「新たな価値創造産業」を生み出し、それを海外に売り込んでいく。



各分野の概況

1. IT分野の概況 ① IT投資額

IT投資の「量」では、日本は、米と比べて劣るが、ドイツ・イタリアには勝る水準。



出典：『「失われた20年」と日本経済』深尾京司（2012）

（注）日本：RIETIのJIPデータベースより推計

米英独伊：EUKLEMSより推計

1. IT分野の概況 ② IT投資の戦略

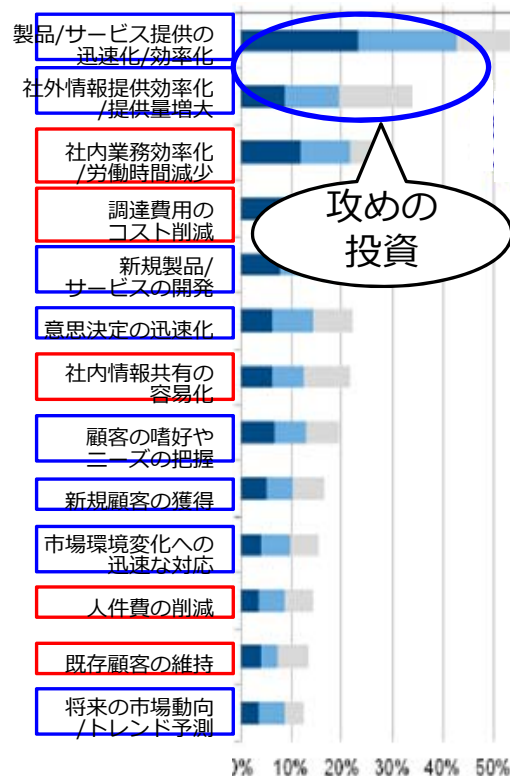
企業のIT投資の戦略を見ると、米国に比して、「攻めのIT投資」が進んでいない。

ITがこれまでもたらした効果の日米比較(上位3つ)

(社)電子情報技術産業協会,2013アンケート調査

米国 (n=194)

日本 (n=216)



攻めのIT投資
企業の売上増や
新たな付加価値の
提供を目的としたIT
投資

守りのIT投資
社内の既存業務手続
きの電子化、単純なコ
スト削減を目的とした
IT投資

□ 守りのIT投資 (主に社内向け) □ 攻めのIT投資 (主に社外向け)

最も効果があった

2番目に効果が
あった

3番目に効果が
あった

1. IT分野の概況 ③攻めのIT投資が進まない要因

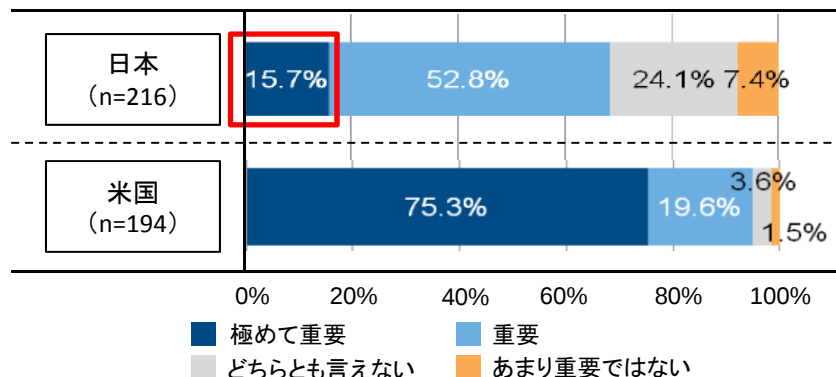
日本は「競争に勝ち残るためにIT投資が重要」との認識が低い。

日本は「単年度毎の会計上の効果」によりの投資の効果を測る傾向。「投資」の認識より「コスト」との認識が強い。

日本のIT支出は固定支出の比率が高い(日本76%、米国53%)。日本は割高なカスタムソフトウェアを導入する傾向が強く、これがIT投資の固定支出比率を押し上げている可能性がある。

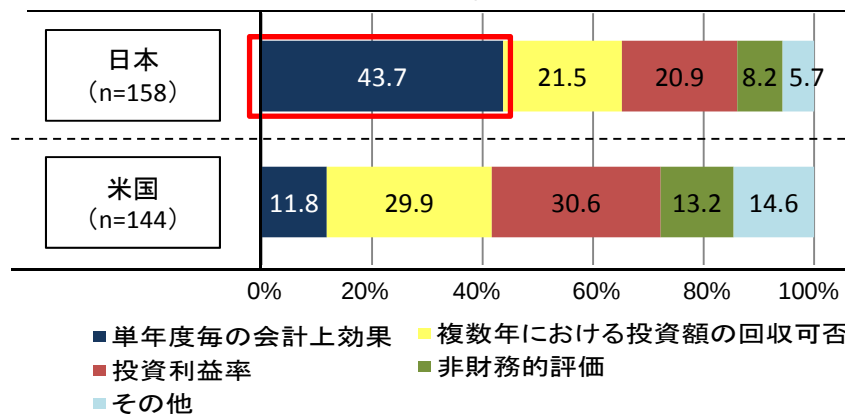
競争に勝ち残るためのIT投資への認識(日米比較(2013))

(社)電子情報技術産業協会.2013アンケート調査



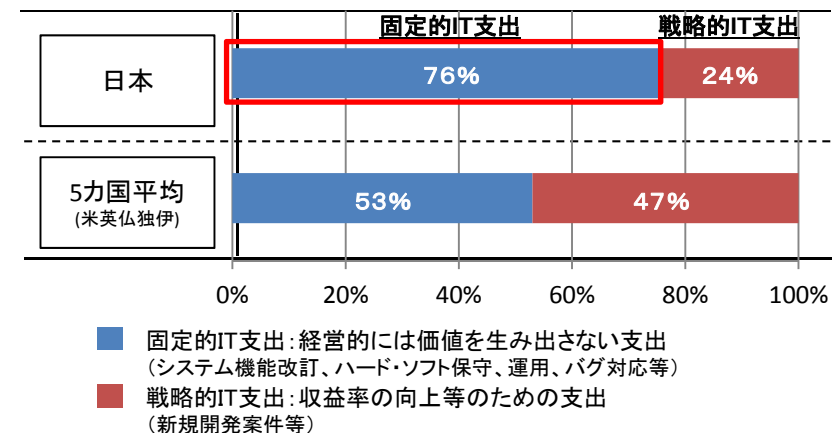
IT投資に対する効果の測り方(日米比較(2007))

(社)電子情報技術産業協会.2008アンケート調査



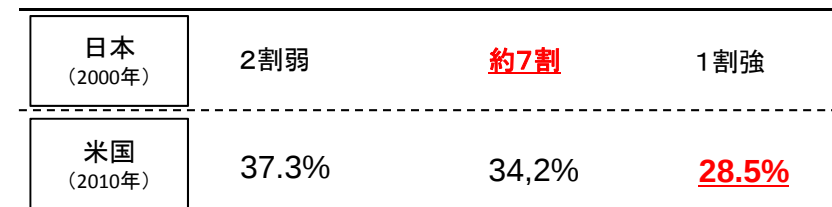
IT支出の内訳(日本と5カ国比較(2005))

出典: アクセンチュアによる調査結果(2005)



日米の導入ソフトウェア比較

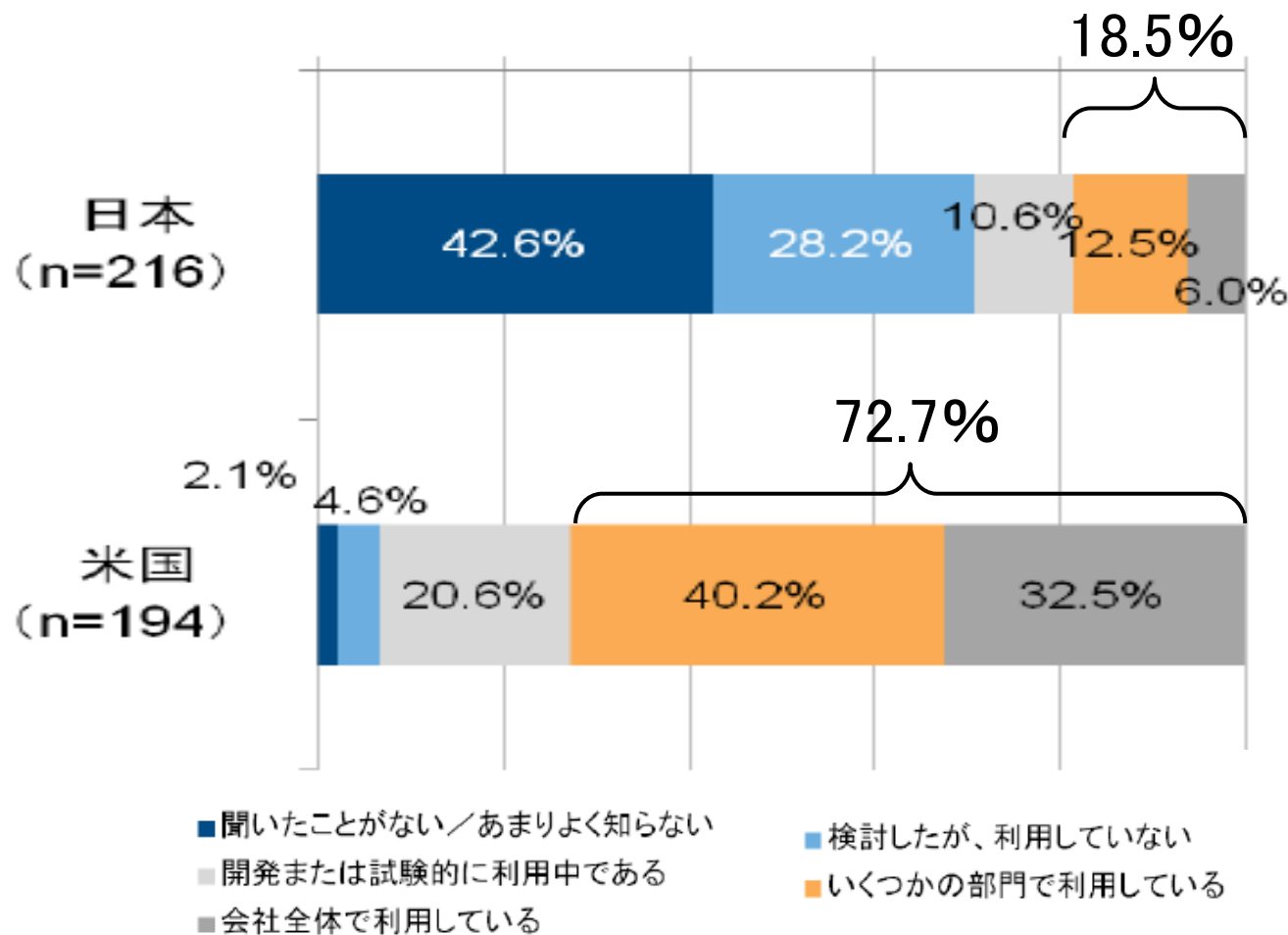
カスタム(自社開発) カスタム(外注) パッケージ



(出典) 日本: 経済産業省鉱工業生産活動分析調査、米国: 商務省経済分析局

1. IT分野の概況 ④ ビッグデータの活用

ビッグデータ活用を開始している企業は、米国が「7割強」であるのに対し、日本は「2割弱」。

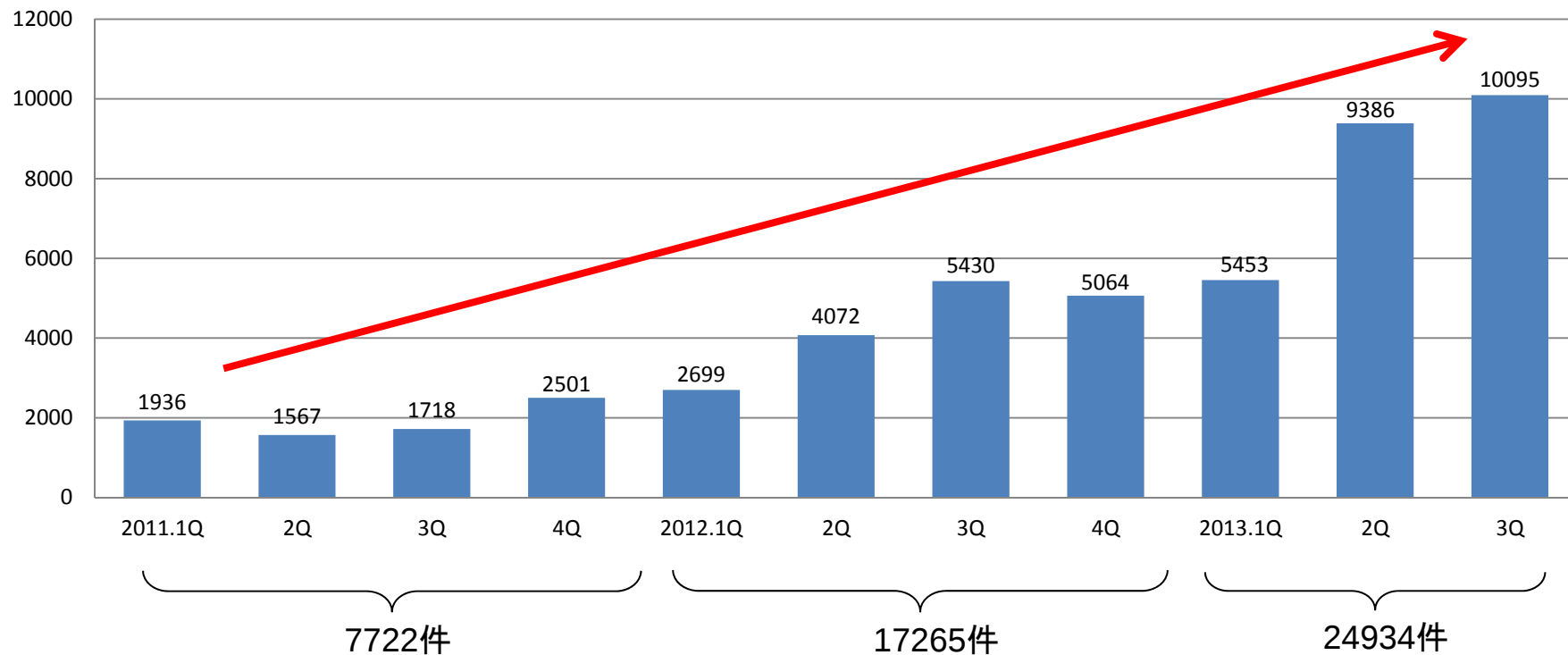


※出典：ITを活用した経営に対する日米企業の相違分析（JEITA & IDC Japan）

1. IT分野の概況 ⑤サイバー攻撃の激化

近年の、日本に対するサイバー攻撃は激化の一途をたどっている。

サイバー攻撃の被害件数
(情報流出、不正侵入、ウイルス感染など)

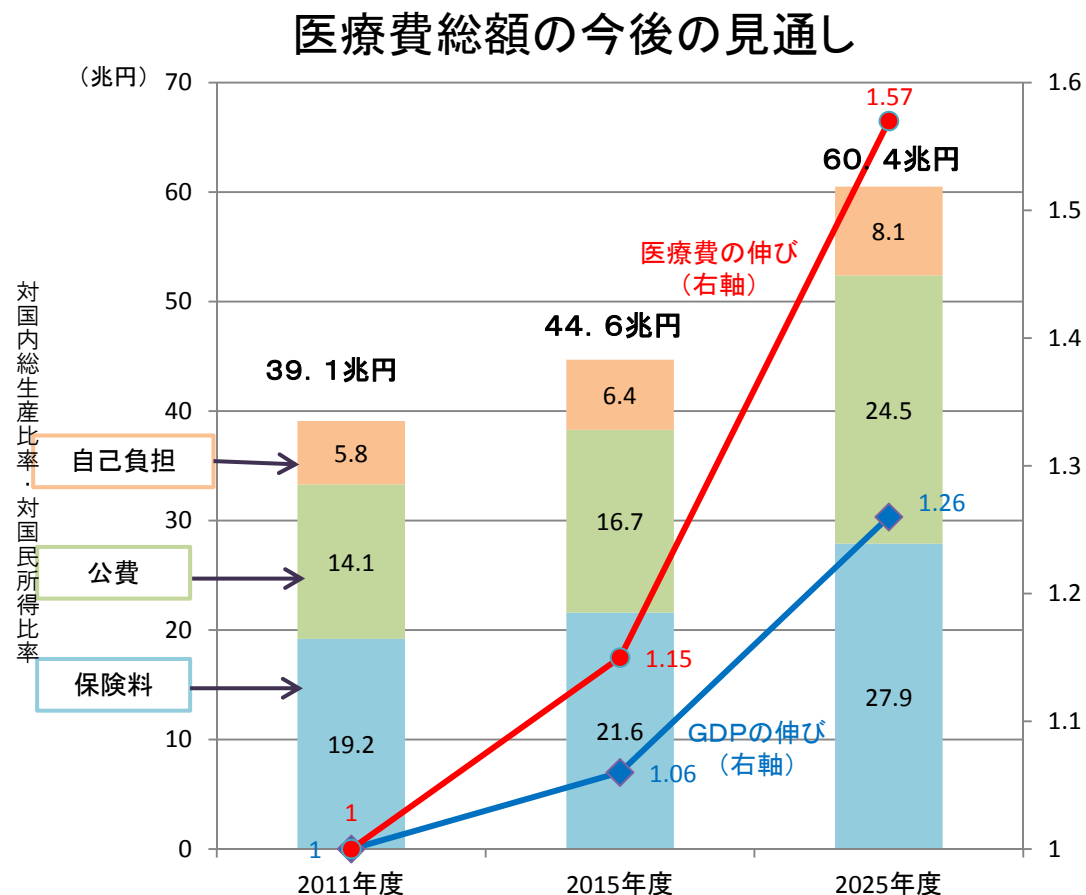
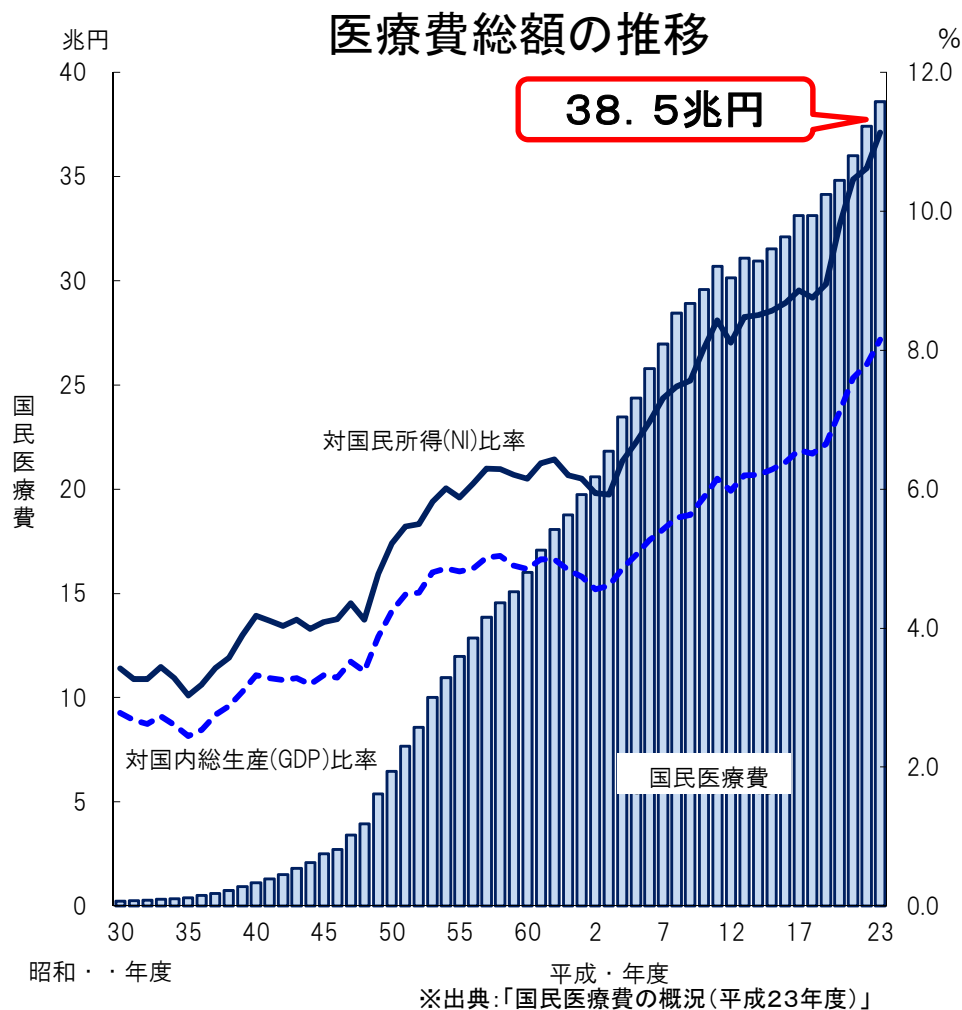


出典: JPCERT/CCインシデント報告対応レポート

2. 健康医療分野の概況 ①増え続ける医療費

平成23年度に史上最高の38兆円を突破した国民医療費は、2015年度には45兆円、2025年度には60兆円を超す見込み。

60兆円のうち公費負担は25兆円となる見込みであり、現在の一般会計税収の6割に相当する規模にまで増大する見通し。



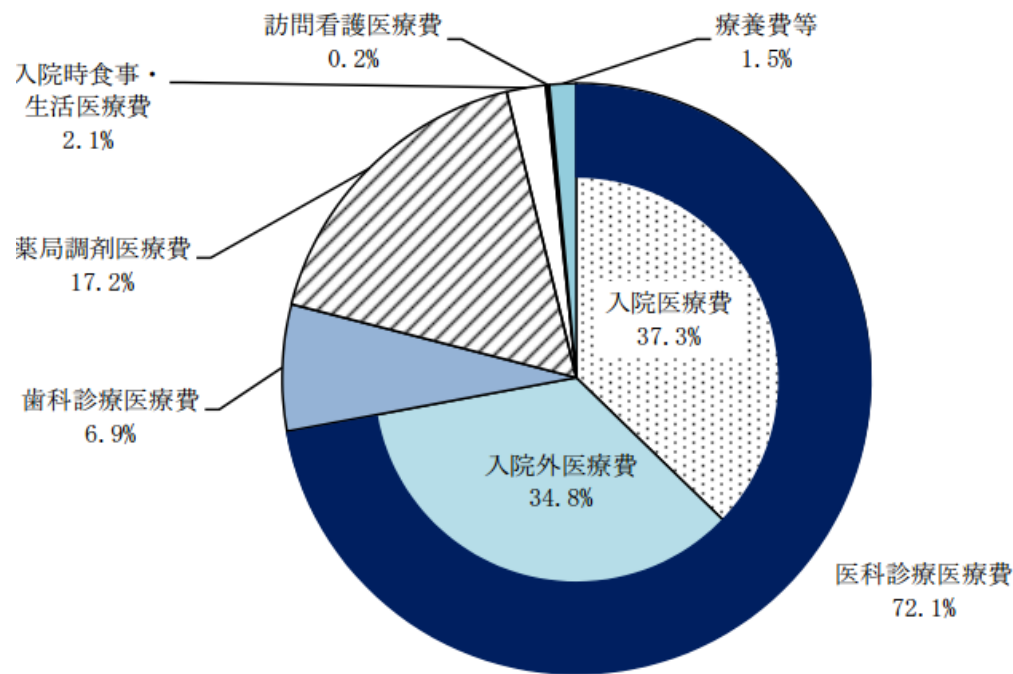
※1 平成23年6月2日社会保障改革に関する集中検討会議資料で公表している将来推計のバックデータから作成。
 ※2 医療費の伸び、GDPの伸びは、対2011年度比。
 (出所)厚生労働省作成資料

2. 健康医療分野の概況 ②セルフマネジメント（自己管理）の重要性

増え続ける医療費の約3割を、高血圧や糖尿病などの「生活習慣病」が占めている。

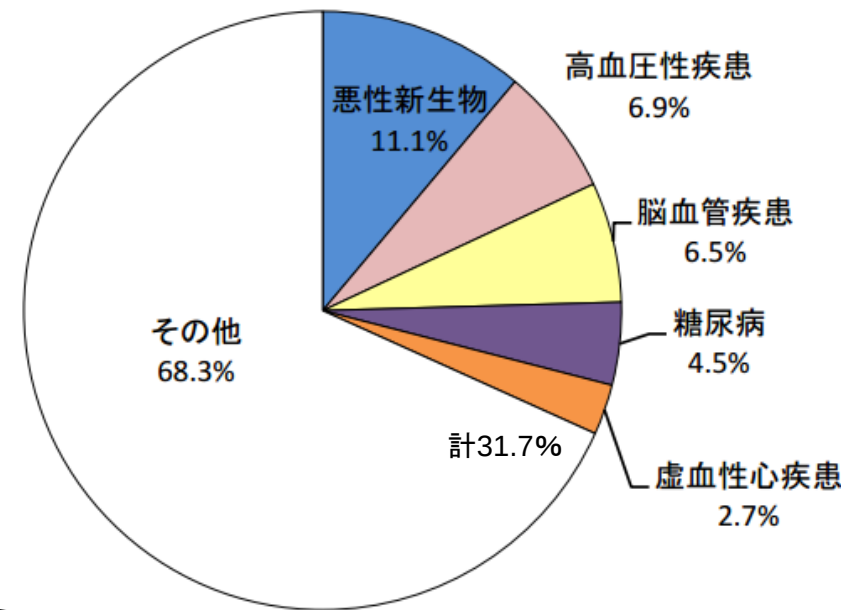
公的保険外の健康サービスが充実すれば、生活習慣病の医療費分を削減することができる。

国民医療費：約38.5兆円の内訳



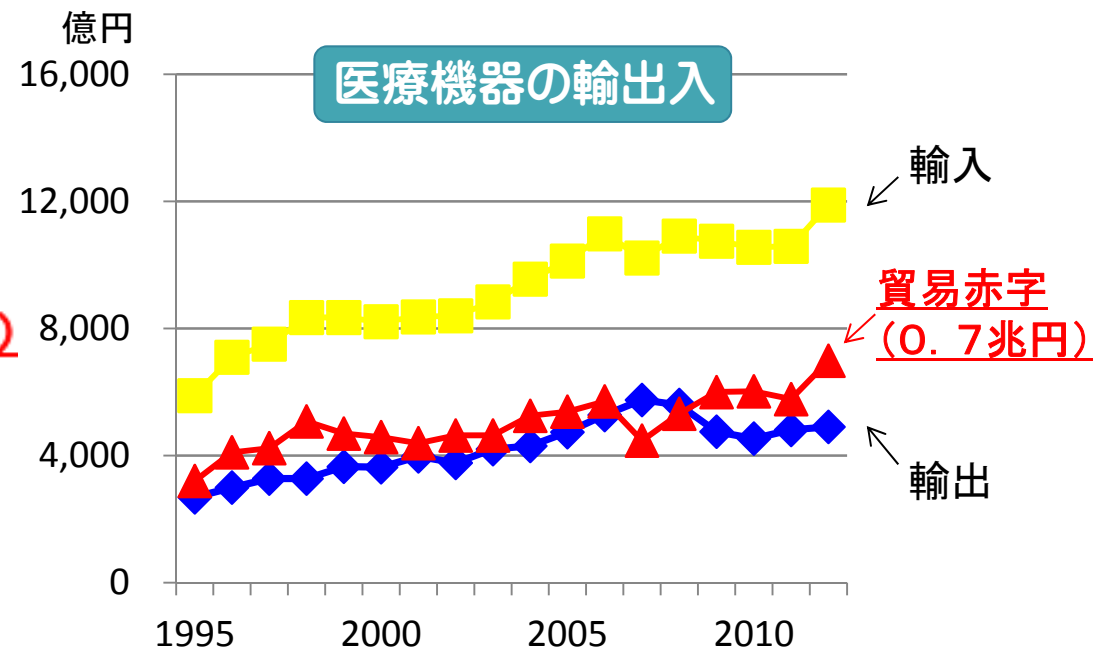
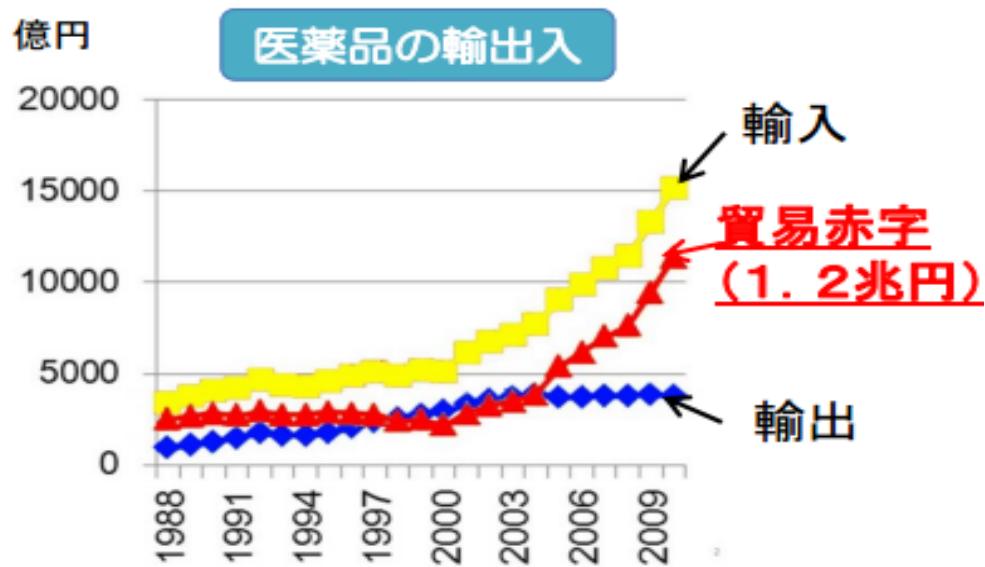
生活習慣病は、医療費の3割(約9兆円)

医科診療医療費：約28兆円



2. 健康医療分野の概況 ③医薬品・医療機器の輸入超過

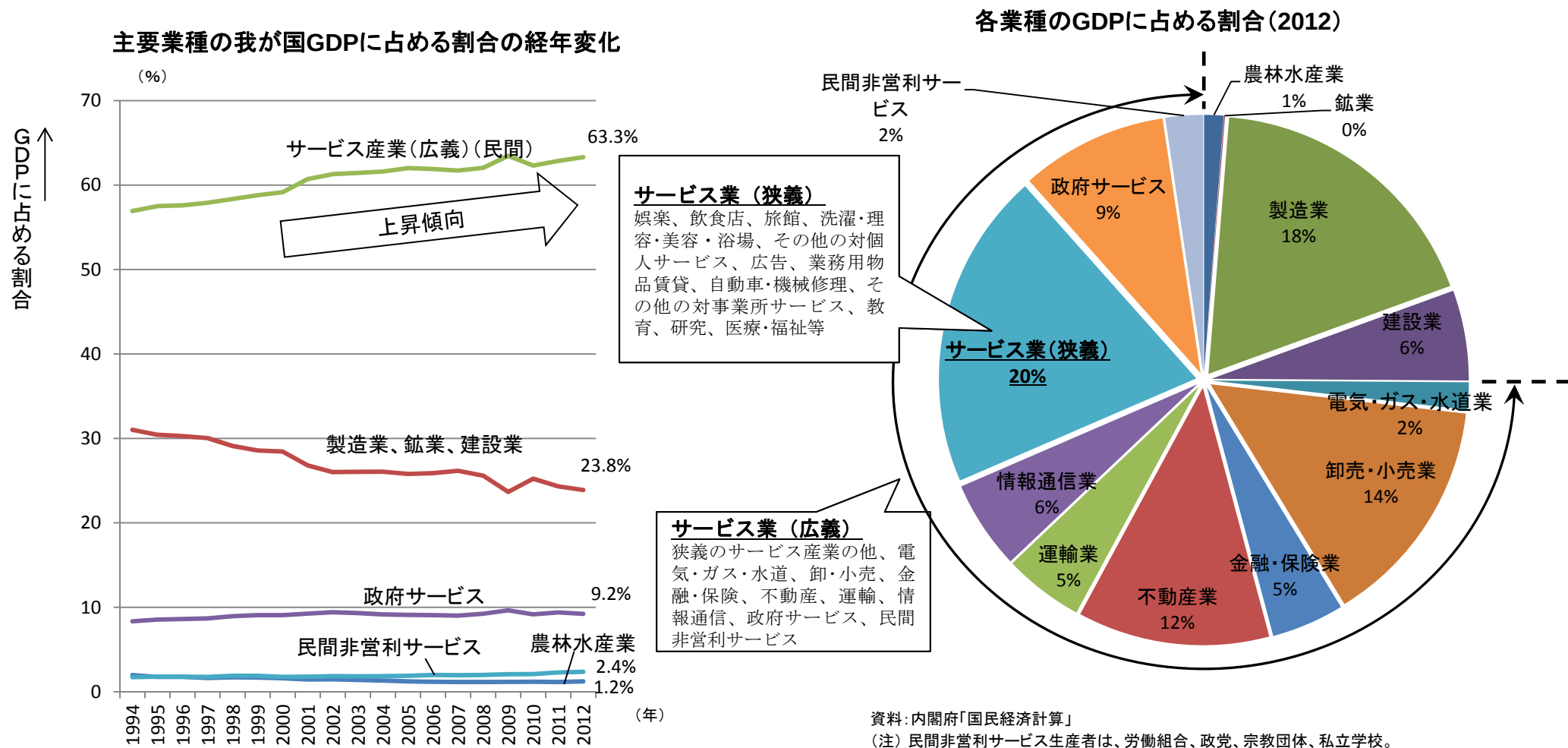
日本の医薬品や医療機器の輸入は増加傾向にある。



(出典)薬事工業生産動態統計

3. サービス分野の概況 ①経済規模

広義のサービス産業(政府及び民間非営利サービスを含む)は、GDPベースで約7割(約350兆円)を占め、規模は拡大傾向。



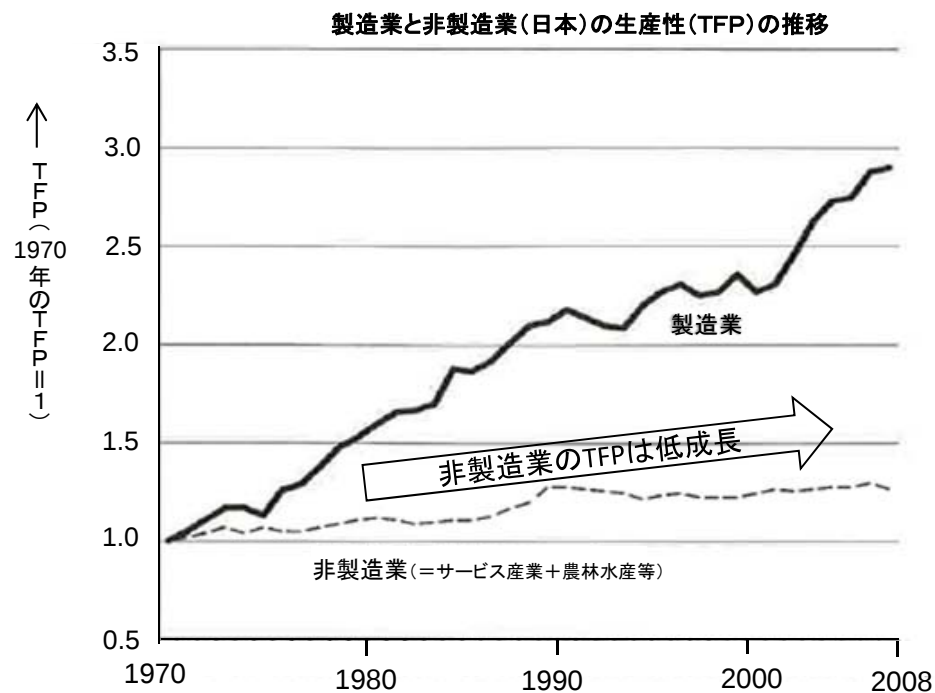
3. サービス分野の概況 ②生産性

製造業と比べ、日本の非製造業※は生産性が停滞している。

※サービス業のみの推計値は存在しないため、非製造業(サービス業+農林漁業等)の値を使用。

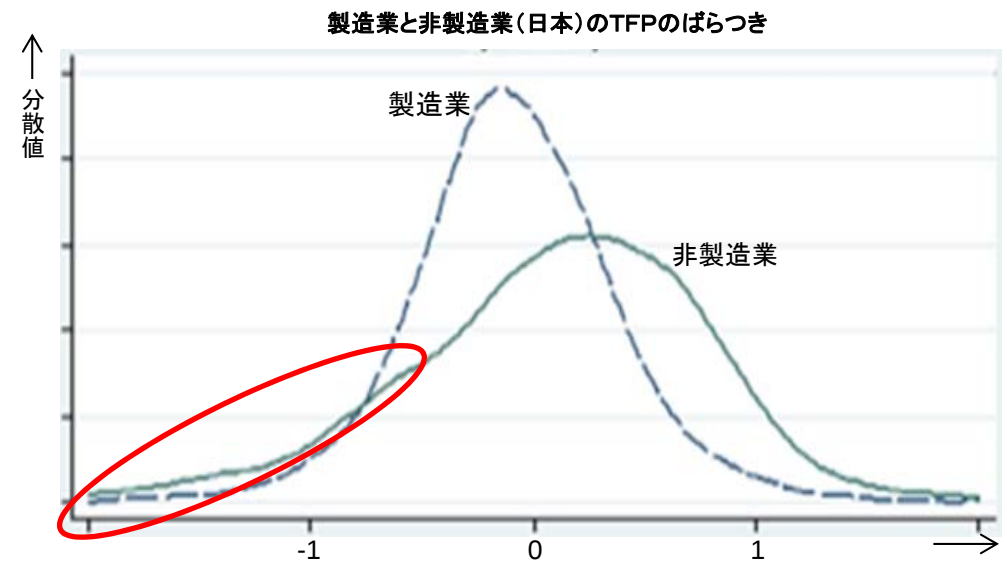
また、日本の非製造業の生産性は

- ・企業間のばらつきが比較的大きく、高生産性層から低生産性層まで幅広く存在している。
- ・非正規な分布となっており、個人経営が多いこと等により、生産性が特に低い層が広く存在している。



出典:『「失われた20年」と日本経済』深尾京司(2012)

※ TFP：全生産要素(労働、資本、技術革新、ブランド価値、業務効率化等)投入量1単位あたりの生産額
労働生産性：労働者1人1時間あたりの生産額

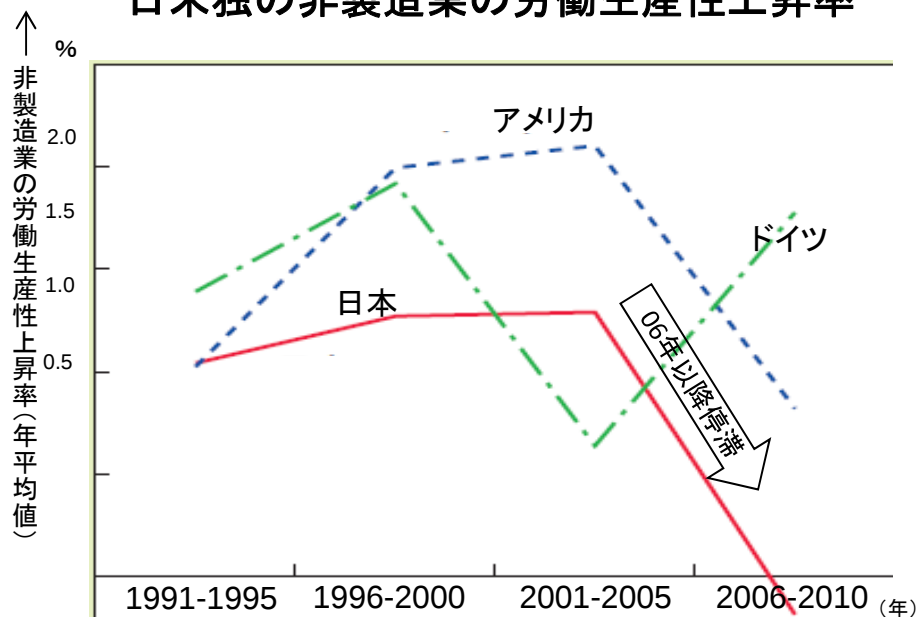


出典:「サービス産業の生産性は低いのか?」経済産業研究所 森川正之(2007)

3. サービス分野の概況 ③国際比較

サービス業の生産性は、諸外国に比しても低迷している。

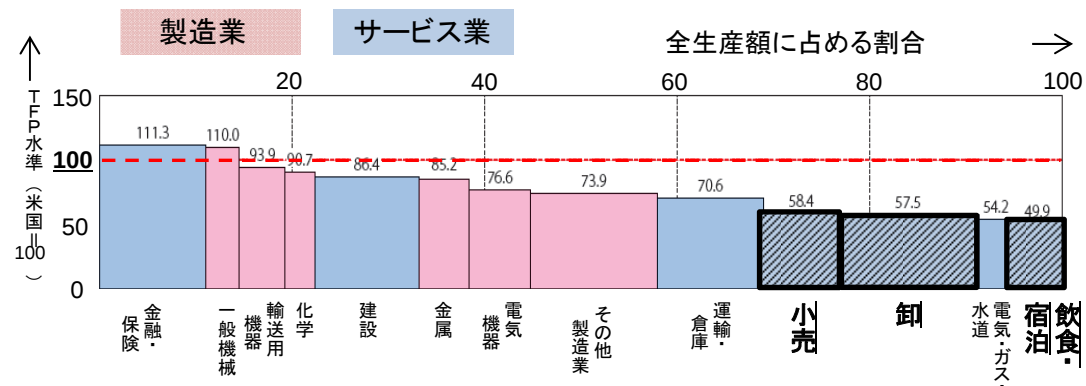
日米独の非製造業の労働生産性上昇率



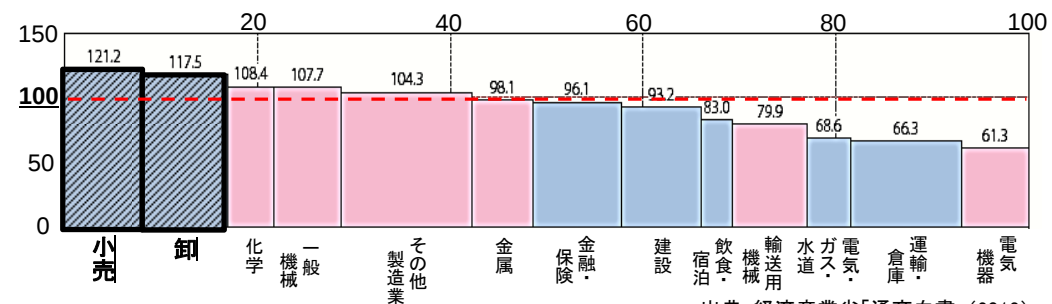
出典：内閣府「年次経済財政報告」(2013)

日本の産業別のTFP水準(米国を100とした場合の割合 2003-07平均)

※TFPは、実質GDPの成長から、資本と労働の寄与を差し引いた残差として算出



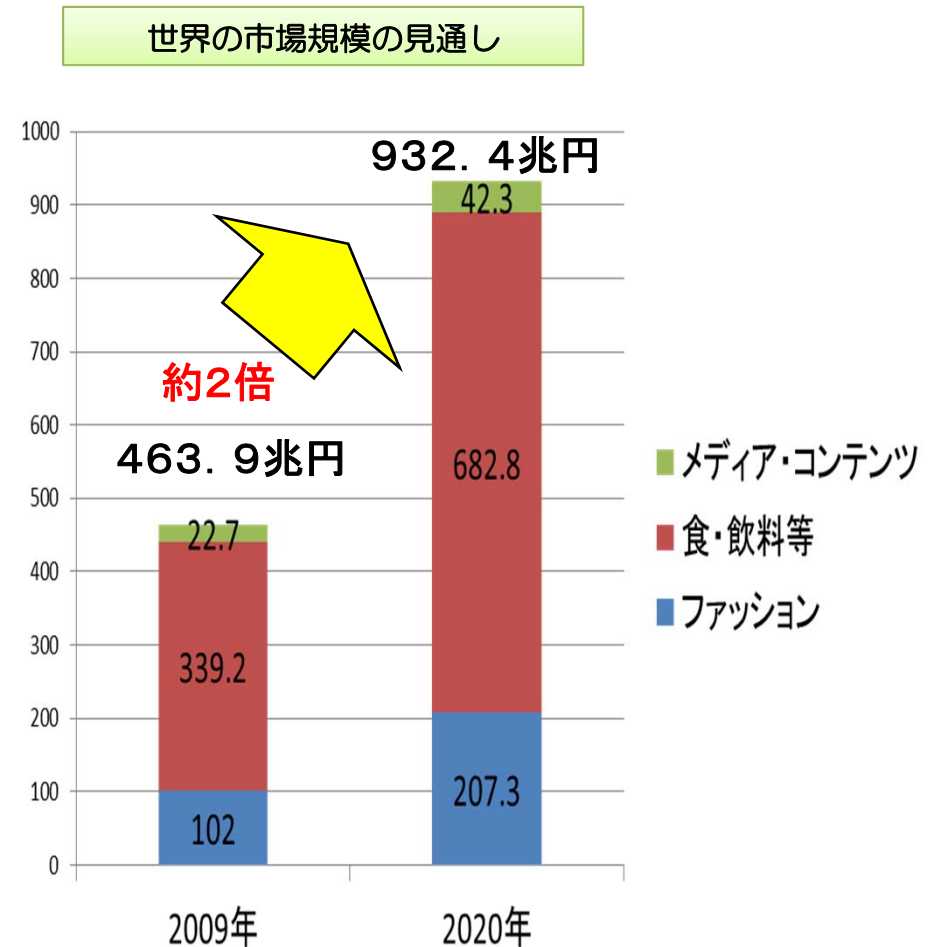
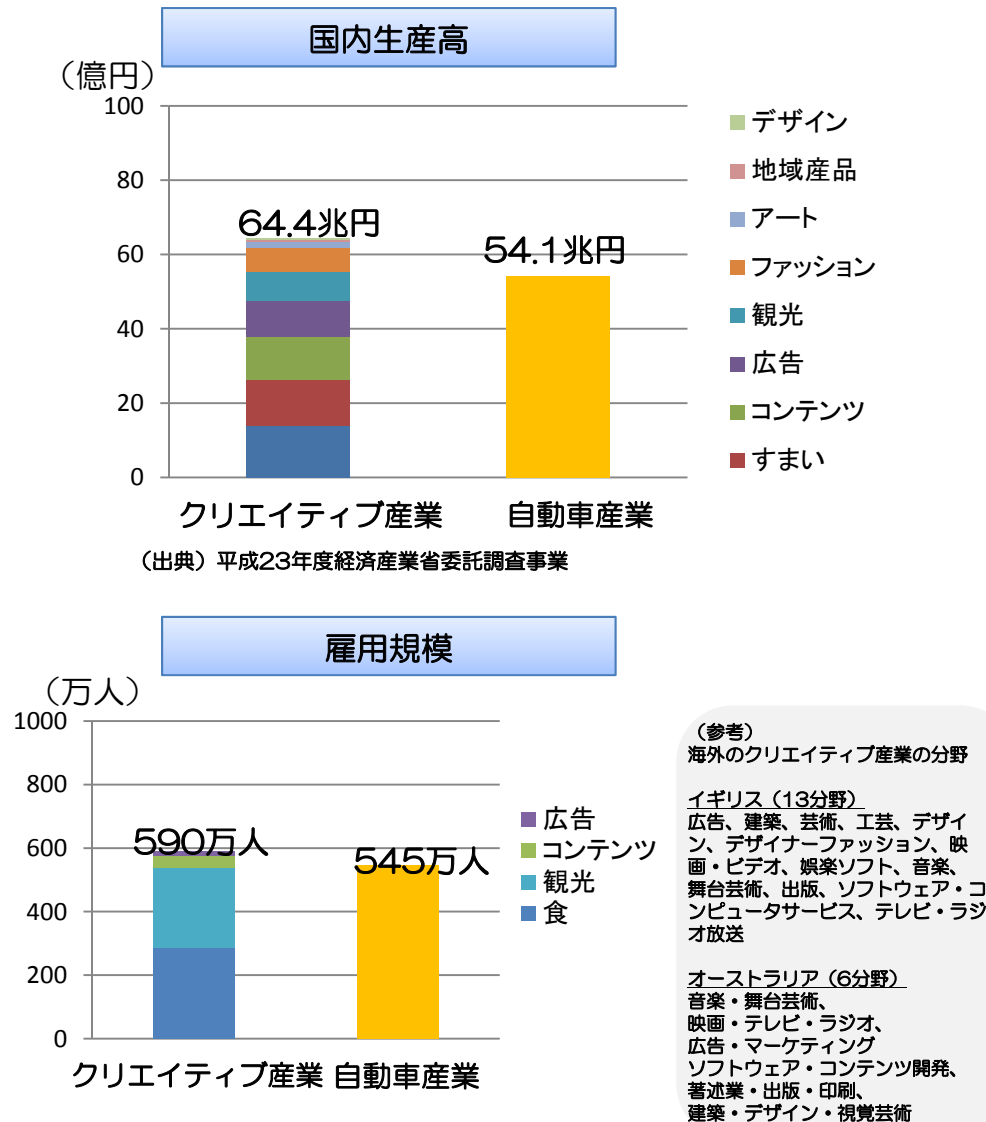
ドイツの産業別のTFP水準(米国を100とした場合の割合 2003-07平均)



出典：経済産業省「通商白書」(2013)

4. クールジャパン分野の概況 ①市場規模

クールジャパン分野は大きな経済波及効果があり、世界の市場は、今後増大が見込まれている。

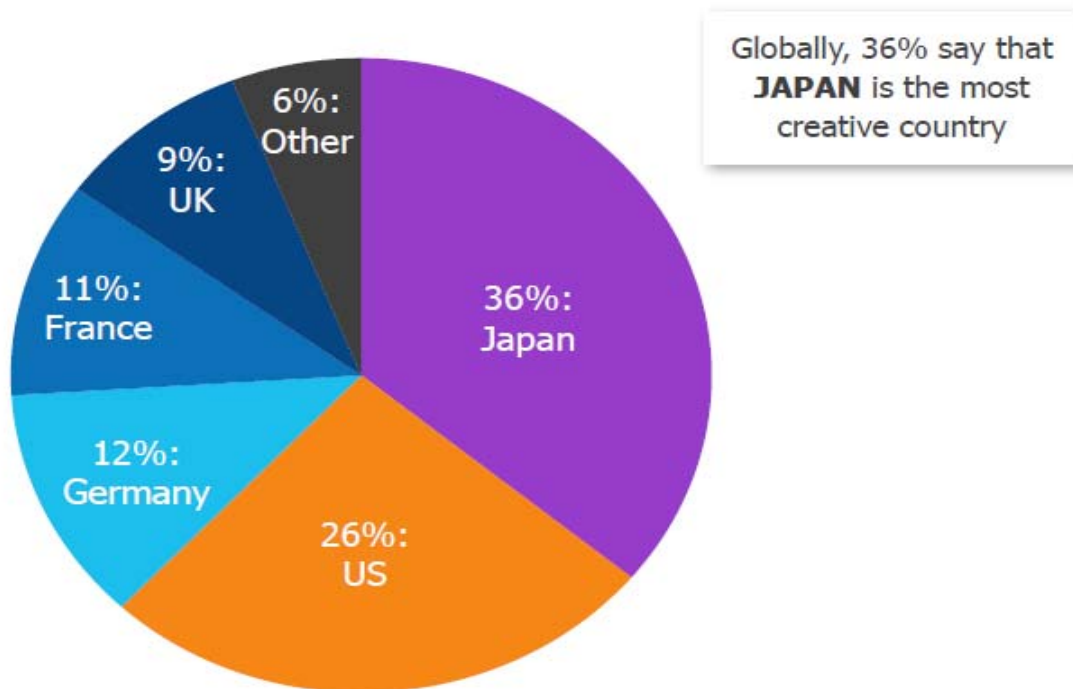


（出典）
「事業所・企業統計調査」「特定サービス実態調査」「情報通信業基本調査」「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」等 から経済産業省試算

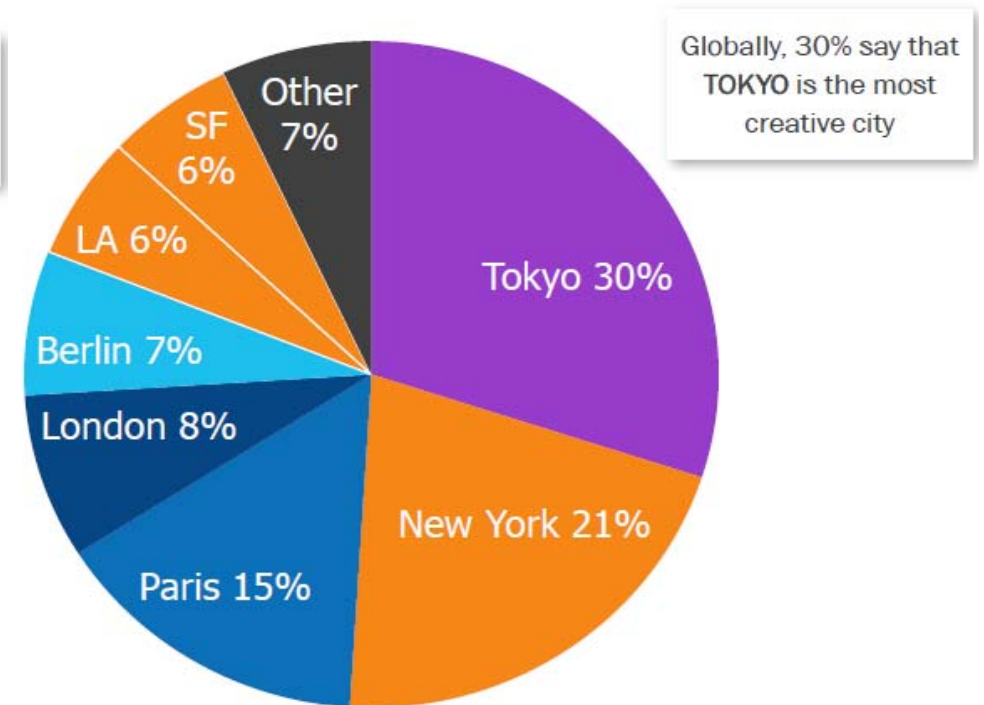
4. クールジャパン分野の概況 ②日本の評価

欧米からみて、日本や東京は、最もクリエイティブとの評価が高い。

日本は世界で最もクリエイティブな国



東京は世界で最もクリエイティブな都市



注: 調査は米国、英国、ドイツ、フランス、日本の18歳以上の成人1000名 × 5カ国 全5000人に調査

出典: state of create study
(2012年4月 Adobe)

4. クールジャパン分野の概況 ③輸入超過

日本のクリエイティブ産業は、ゲームを除き輸入超過となっている。

クリエイティブ産業の輸出入額

単位：億円

	ゲーム	化粧品	ファッション (繊維製品)	映画	音楽	書籍	雑誌	著作権	観光	合計
輸出 (受取)	2,930	1,292	376	46	22	73	43	1,317	8,752	14,851
輸入 (支払)	21	1,674	18,516	408	240	217	72	7,007	21,716	49,871
収支	2,909	△382	△18,140	△362	△218	△144	△29	△5,690	△12,963	△35,019

※出典

映画・ゲーム・音楽・雑誌・書籍・化粧品：貿易統計（パッケージのみ、オンライン含まず）
音楽のみ2005年、それ以外は2011年

著作権・観光：日本銀行 国際収支統計 2011年

ファッション：繊維ハンドブック2009

今後、検討が必要な課題例

IT

- ①日本のIT投資を、どのように「攻め」のビジネスモデル改革につなげていけるか。
- ②ITを活用したベンチャー企業の活躍を、どのように促していくか。
- ③ビッグデータの利活用を促すために、個人情報のルール整備などの環境づくりをどう進めるか。
- ④サイバーセキュリティに強い産業構造を構築するために、官民でどのような取組が必要か。

健康・医療

- ⑤公的保険外の健康サービスを発展させ、医療費抑制、新産業創出につなげられるか。
- ⑥新たなビジネスモデルを進展させるため、規制のグレーゾーン解消をどう進めてゆくか。
- ⑦ITの活用、ビッグデータ分析により、医療や健康管理・予防サービスをどう充実させてゆくか。
- ⑧日本の医療サービスや医療機器を、どのように国際的に展開してゆくことができるか。

サービス

- ⑨サービス産業の革新を担う経営人材を育成するメカニズムを、どのように構築するか。
- ⑩ITやビッグデータを活用した新たなビジネスモデルの創出を、どのように促していくか。
- ⑪ビジネス支援サービスの活用推進により、生産性の向上を図れないか。
- ⑫行政のオープンデータを通じて、新たなサービス創出の基盤を作りだせないか。

クールジャパン

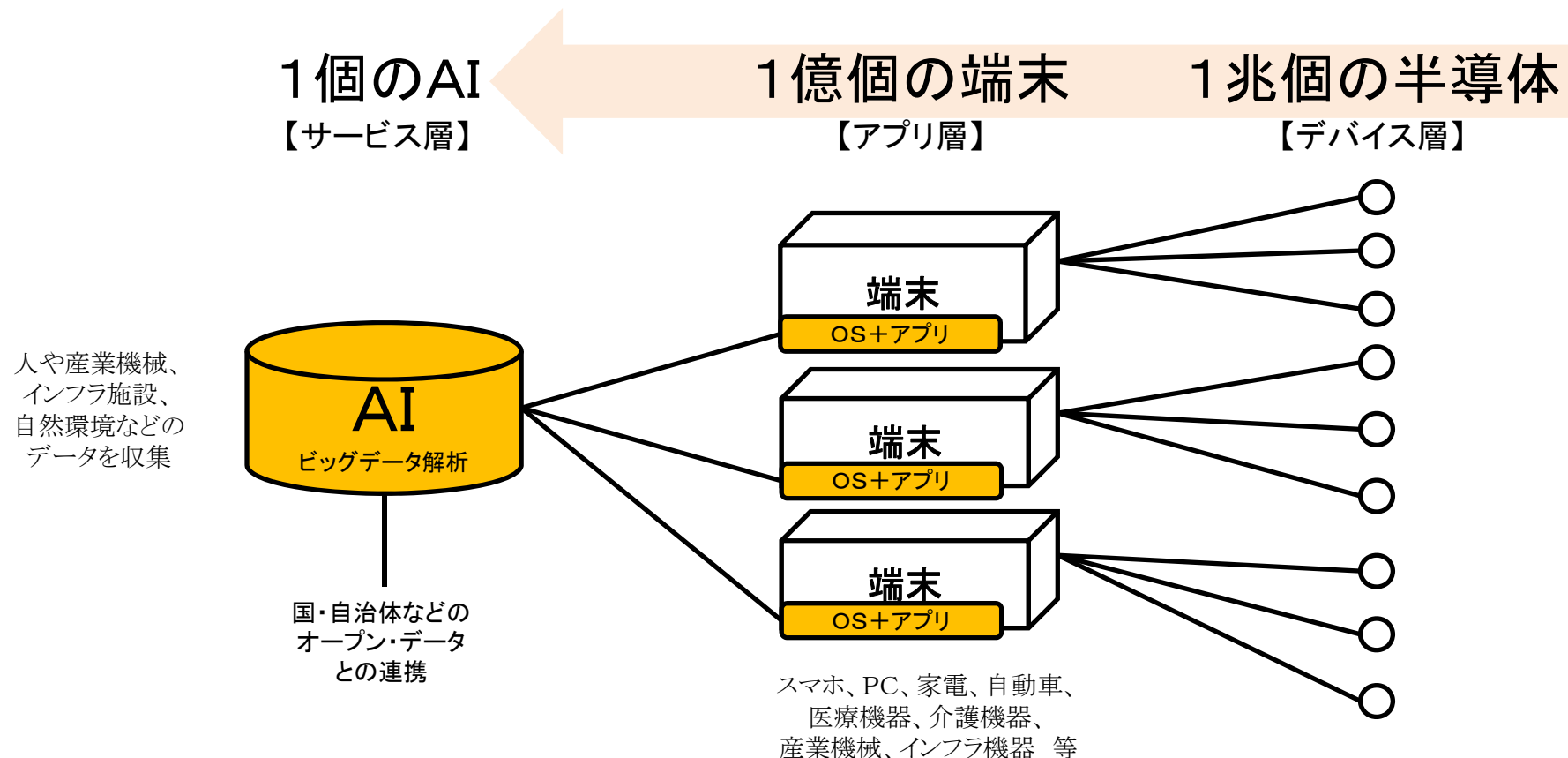
- ⑬クールジャパンについて、有望国・分野などを示すなど、どのような戦略で取り組むか。
- ⑭クールジャパン機構を活用して、民間のビジネスの知恵を、どのように実現につなげていくか。
- ⑮観光（国交省）や食（農水省）など、他省庁との連携をどのように深めていくか。
- ⑯ミラノ万博や2020東京オリンピック・パラリンピックを好機として、どうクールジャパンを推進するか。

検討の方向性

1. ① IT・エレクトロニクス産業

日本はこれまで、高品質な「半導体」を供給し、高性能な「端末」を製造することに強みがあった。近年は、その端末が「OSとアプリ」でつながったことで、ビッグデータ解析による新たなサービスが生まれてきている。(Googleなどのグローバル企業は、システム全体としてサービスを提供し、付加価値を生み出している)

今後、サービス、アプリ、デバイス層全体が連携し、新たな価値創造産業を創出していくことが重要ではないか。



1. ②ビッグデータの利活用

ヘルスケア分野やエネルギー分野において、具体的なビッグデータの利活用を促進している。その際、パーソナルデータ利活用に向けた制度の見直しや、公共データ開放とオープンデータの利活用促進を進めていくことで、引き続き、新事業創出を後押ししていく。

また、中小企業等のクラウド利用の推進や、電子商取引の更なる環境整備にも取り組んでいく。

P36. ルール整備WG

がん診療支援システム

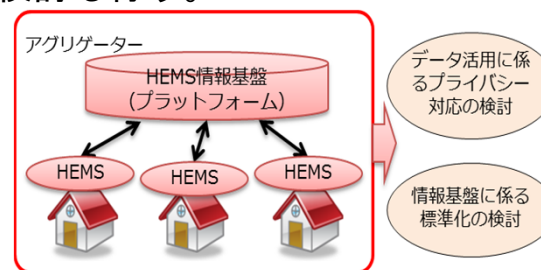
患者/疾患毎の大量の生体データをIT化/標準化することで、革新的な病情報データベース、治療計画プラットフォームを構築する。

これにより、がん診療の質の向上とコスト低減を両立する診療プロセスのイノベーションを提案する。



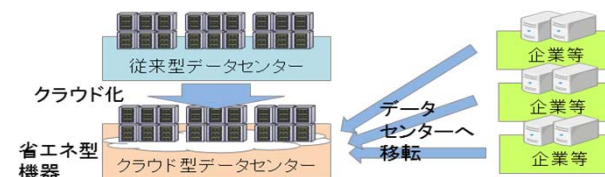
家庭におけるエネルギーマネジメント

家庭におけるエネルギー利用データを活用し、エネルギーマネジメントや生活サービスを提供する新しいシステムを整備する。プライバシールールの整備や、標準化の検討も行う。



中小企業等のクラウド活用

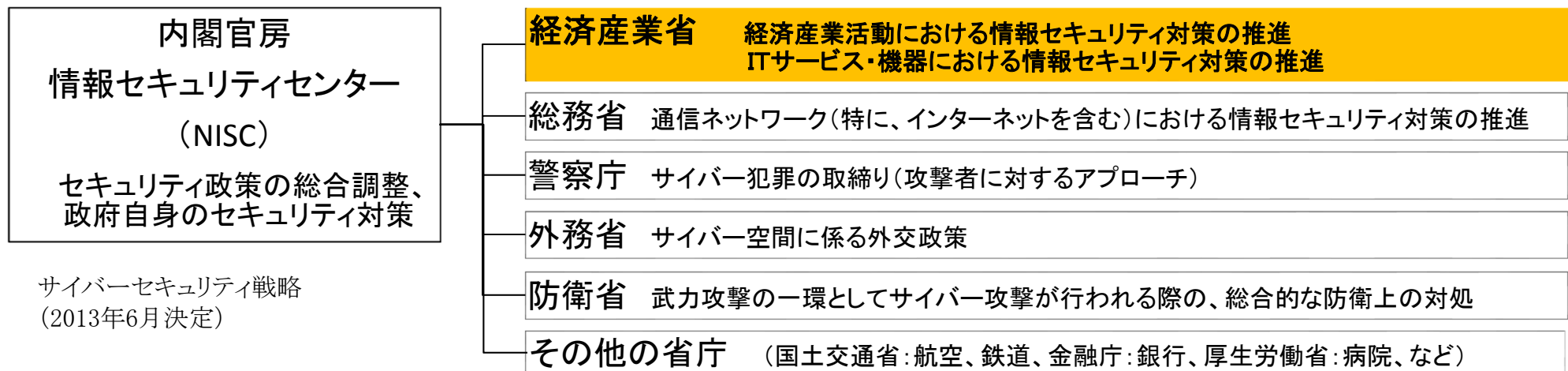
省エネやBCPの観点から、クラウド型のデータセンターの活用を促すなどの、基盤整備を行う。



1. ③サイバーセキュリティの確保

激化するサイバー攻撃に対処するため、政府一丸となって、「サイバーセキュリティ戦略」に基づき対策を強化する。

経済産業省としても、産業活動や、ITサービス・機器における対策を推進する。



経済産業省の具体的な取組

(独)情報処理推進機構(IPA)
による、攻撃情報や脆弱性情報
の収集・共有。

宮城県多賀城市に設立した制御
システムセキュリティセンターにお
ける安全性の評価・認証。

評価・認証ルールの国際調和・相
互認証による、日本製IT機器・
サービスの輸出促進。

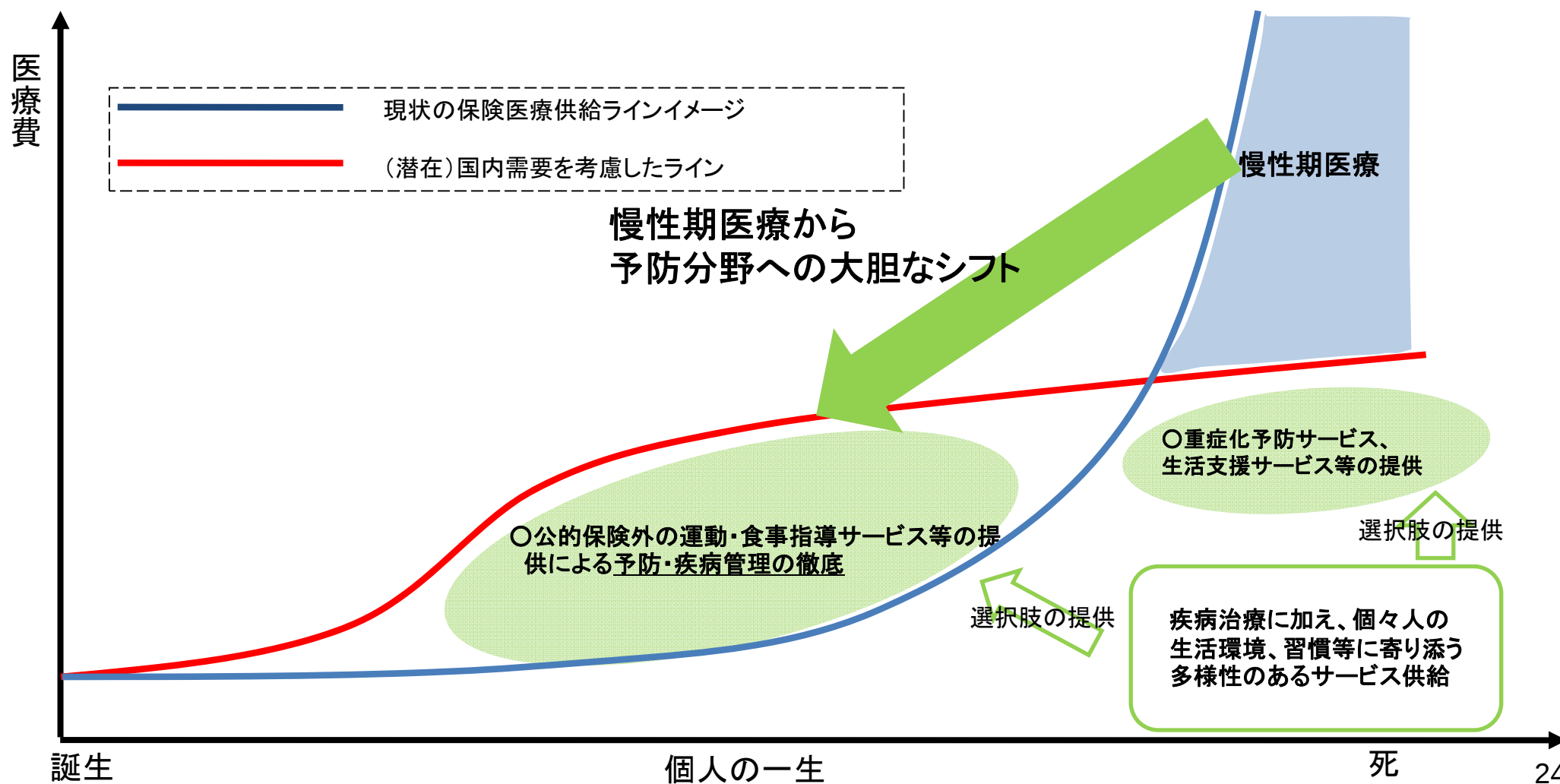
IPAの情報処理技術者試験など
による、人材の育成。

各国CSIRT(サイバーセキュリティ事態対応
チーム)を通じた、国際的な情報共
有・連携の枠組みの強化。

2. ①ヘルスケア

生活習慣病等の慢性期医療にかかる費用を予防・疾病管理にシフトすることにより、健康寿命を伸ばし、健康で長生きできる社会を目指す。

具体的には、公的保険外の運動・食事指導サービス等により国民のQOL(生活の豊かさ)の向上を図り、個人の一生にかかる医療費総額を抑制する。



2. ②関連市場の創造

①健康予防産業	②医薬品・医療機器産業	③介護関連産業
公的保険外の予防・健康管理サービス・関連機器 (具体例:運動・食事指導サービス)	医薬品 再生医療 医療機器(医療とのパッケージ輸出)	公的保険外の生活支援サービス・介護支援機器 (具体例:介護ロボット、配食・見守り・通院支援・家事代行等)
【課題】① ・規制との関係が不明確で、企業が参入を躊躇する分野あり ・消費者にとって、サービスが信頼できるものか判断しにくい ・予防・健康管理の意識が不十分 【対応の方向性】 ・医療関連制度上のグレーゾーンの解消 ・第三者認証等の品質確保の普及 ・企業、個人等による健康投資の拡大	【課題】② ・研究開発成果の実用化の遅れ ・医療の国際展開の遅れ 【対応の方向性】 ・基礎から実用化までを一気通貫でつなぐ研究開発の推進体制整備 ・医療機器の特性に応じた薬事法の改正 ・医療機器・技術・サービスが一体となった国際展開の推進	【課題】③ ・介護支援機器が高価で使いにくい ・公的機関との連携、情報共有が不十分 【対応の方向性】 ・安価で使いやすい機器の開発支援、リースによる普及支援

○公的保険外の予防・健康サービスの充実には需給両面からの課題克服が必要。

官民一体となって、具体的な対応策の検討を行う場として、「次世代ヘルスケア産業協議会」(平成25年12月24日:第1回開催)を設置。また、主要な課題に対応してWGを設置し、検討を深化。本年6月に中間とりまとめを予定。

- ・事業環境WG:新たな健康関連サービス製品の創出のための事業環境の整備(グレーゾーン解消等)に係る検討
- ・品質評価WG:健康関連サービス・製品の品質評価の在り方の検討
- ・健康投資WG:企業、個人等の健康投資を促進するための方策の検討